

令和5年度 保護者アンケート

評価項目	7月(回答率60.1%)				12月(回答率37.8%)			
	A よくあてはまる	B あてはまる	C あまりあてはまらない	D あてはまらない	A よくあてはまる	B あてはまる	C あまりあてはまらない	D あてはまらない
1 子どもは、進んであいさつをしている。	31	49	17	2	28	50	19	3
② 子どもは、学校へ行くのが「楽しい」と言っている。	48	40	10	2	53	38	9	1
③ 子どもは、「授業がわかりやすい」と言っている。	33	53	12	2	38	52	9	1
4 子どもは、「です」「ます」等のていねいな言葉遣いをしている。	18	43	31	7	12	49	31	7
5 子どもは、徒歩登校(てくてく登校)をしている。	78	13	5	4	84	11	2	4
6 学校は、学習のきまり(聞く態度・姿勢・学習用具の準備)の指導を行っている。	63	33	3	1	56	39	4	1
★ 7 学校は、校内の様子や学習状況等についてお知らせしている。(公文・スクリレ・HP等)	67	29	5	0	60	38	1	1
8 学校は、子どものことについて、適切に相談に応じている。	54	42	3	0	52	45	3	1
9 学校は、子どもの努力を認め、よいことをほめている。	61	36	3	0	58	39	2	1
10 学校は、子どもの発表の場や活躍の場を積極的につくっている。	55	41	4	0	57	40	3	1
11 学校は、いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる。	43	51	5	1	41	53	5	2
12 学校は、事故防止等の安全対策を行っている。	50	46	4	1	50	47	3	0
13 学校は、学習環境(施設・設備・花と緑等)が整っている。	55	42	3	0	58	39	2	1
● 14 家庭では、子どもの将来の「夢」や「進路」等について話している。	37	45	14	4	30	47	19	4
15 家庭では、望ましい生活習慣(早寝・早起き・朝ご飯)の定着を行っている。	44	49	7	0	40	53	7	1
16 家庭では、家庭学習の時間を設定し、学習のチェック(サイン等)をしている。	40	40	17	3	44	37	17	3
● 17 学校は、小中一貫教育の取り組みや活動の様子について伝えている。	40	47	8	6	37	45	15	4
● 18 PTA活動には、進んで参加している。	14	32	38	15	9	37	30	23

(考察)7月と12月の比較から(※四捨五入しての数値のため、合計100%にならない項目あり)

○ 5～13・15以外にも、12月には2と3でAB判定合計が90%を越えた。

○ 最も良い判定を出しているのは、7「情報発信」で、AB判定の合計が98%と最も高い。また、8「相談に応じる」と9「努力の承認と称賛」・10「発表や活躍の場づくり」・12「安全対策」・13「学習環境」も97%と高い。

→ 公文発送の他、スクリレ、HPでの情報発信や学校の取り組み等に対して、保護者から認められている。



○ AB判定合計で最も上昇(+4%)したのは、3「授業がわかりやすい」と5「徒歩登校」である。

→ 先生方の学習指導の方法や登校に関して保護者・家庭の意識も高まっている。

● CD判定で最も高いのは、18「PTA活動への参加」で、AB判定を合わせても46%と過半数に満たない。更に、A(C)が下落、B(D)の下位が上昇している。

→ 教師の働き方改革に伴い、PTA活動の低迷が影響している。より有効なPTA活動への取り組みの方法を模索する必要がある。

● AB判定合計で最も下降した(-5%)のは、14「将来の話をする」と17「小中一貫の取り組み情報発信」で、特に17は「よくわからない」の回答も多い。

→ 14は学校からもその機会を提供すること、17はより良い取り組みも必要である。